

東リ・ピュアボンド(でんぱん系接着剤) 原液使用タイプ

東リ・ピュアボンドは壁紙施工用接着剤(でんぱん糊)です。一般的な接着剤に比べて、合成樹脂系接着剤の配合量が多いため、ハガレやスキマの発生を抑えることができます。原液使用タイプのため、安定した仕上がりとなります。水で希釈せず、そのままご使用ください。

【品番】 WN 01

【規格】 18kg/箱 (1箱で約80～100㎡の施工が可能)

【価格】 3,700円/箱(材料価格・税抜き価格)



項目	規格	備考
外観	淡白色ペースト状	JIS A 6922
接着強さ	4N/25mm以上	
カビ抵抗性	0	
ホルムアルデヒド放散量	不検出(0.1mg/L以下)	
凍結融解安定性	4N/25mm以上	
pH	4～8	

<取扱い上のご注意>

東リ・ピュアボンド

- ①水で希釈せずそのままご使用ください。
- ②接着用以外には使用しないでください。
- ③5℃以下の低温環境下では、接着剤の性能が発揮できませんので使用しないでください。
- ④壁装専用のバテを用いて、下地を平滑に仕上げから施工してください。
- ⑤石膏ボード以外の下地(モルタル・コンクリート下地、合板下地、金属下地等)に施工する場合は、壁装専用のシーラーや防カビ剤等を用いて、適切な下地処理を行ってから施工してください。
- ⑥下地が十分に乾燥していることを確認してから施工してください。
- ⑦壁紙への塗布後、壁紙や下地等の状況に応じて、適切なオープンタイムを取ってください。また、環境や施工条件に応じて塗布量を調整してください。
- ⑧ジョイント部よりはみ出したときや、他の内装材に付着したときは速やかに拭取ってください。
- ⑨施工時および施工終了後しばらくは急激な環境変化を与えないで、接着が安定するまで自然乾燥させてください。
- ⑩乾燥後は十分に換気を行ってください。

施工上のご注意一覧

当サンプル帳には自然素材(紙、繊維など)を主体とした商品を収録しています。

これらは、一般ビニル壁紙に比べて、下地調整や材料を取扱う際に十分な配慮が必要となるため、施工費が割高となります。

なお、施工の際には、必ず商品に同梱している「施工上のご注意」資料を併せてご確認くださいませようお願いいたします。

共通事項

施工注意内容	理由
下地は平滑に仕上げてください。 また、ネジ・クギ類にはサビ止めをしてください。	不陸や変色を発生させる恐れがあります。
モルタルや合板下地等は、必ずシーラー処理を行ってください。	アークが発生し、壁紙を変色させることがあります。
モルタル等の湿式下地や、石膏ボードの石膏系接着剤による直張り工法(GL工法等)およびバテ、シーラーを施した箇所は十分に乾燥させてください。	湿気を帯びていると壁紙の変色やカビの発生を招くことがあります。
「東リ・ピュアボンド(原液使用タイプ)」をご使用ください。その他の接着剤を使用する際は、必ず糊にエチレン酢ビ系接着剤を混入したものを用い、希釈率はそれぞれの指定配合を守ってください。	ハガレ等が発生することがあります。
壁紙をきつきたんだり、湾曲部を強く押さえないようにしてください。必ず大きいたみ、上積みは避けてください。	折れジワが付くことがあります。
適切なオープンタイムを取り、壁紙が柔らかくなってから張り出してください(オープンタイムは商品別施工上のご注意欄をご参照ください)。また、ハケでエア抜きを充分に行ってください。	フクレや突上げが発生する恐れがあります。
なで付けは丁寧に行ってください。また、ローラーは必ず広巾のウレタン製のものを用いて、丁寧に圧着してください。	ローラーを強くかけたり、表面を強くこすると、光沢が変わって見えることがあります。
石膏ボード下地で重ね切りを行う場合は、石膏ボードの原紙まで切込まないようにご注意ください。下敷きテープをご使用ください。	目地スキの原因となります。
表面に糊が付かないようご注意ください。 やむを得ず、表面に付着した場合は、清水で絞った布等で拭取ったあと、必ずきれいな布で乾拭きしてください(商品によっては色落ち等の発生することがあります)。	糊の拭取りが不十分な場合は、光沢が変わって見えたり、後日変色することがあります。
施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。窓を開けて風通しを良くしたり、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。	目地スキ、ハガレ等の原因になります。
粘着テープを壁紙表面に貼付けしないでください。	壁紙の変色や破損を招きます。

商品別施工上のご注意

	商品名	品番	オープンタイム ():冬場または 吸水性の低い下地	施工注意および使用上の注意	
①	アースウォール	WEN9001～9100	15～30分 (30～60分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●糊の付けだめを避けてください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●通常の紙壁紙に比べ、カッターの刃が傷みやすいため、<u>こまめにカッターの刃を替えてください。</u> ●合成皮革等の塩ビ製品と接触させないでください。塩ビに含まれる可塑剤により壁紙が変質することがあります。
②	防汚紙ウォール	WEN9201～9288	15～30分 (30～60分)	<ul style="list-style-type: none"> ●コーナーテープは穴あきタイプのプラスチック製のものをご使用ください。貼付ける際は、バテを用いて行なうか、粘着テープ付きのものをご使用ください。 ●穴あきタイプ以外では施工糊が乾燥せず、壁紙の変色・ハガレ・カビの発生を招くことがあります。 ●ただし、穴あきタイプを使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の変色・ハガレ・カビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●糊の付けだめを避けてください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 ●折れジワの発生を防ぐため、糊付け時は大きいたまみ、上積みは避けてください。 ●表面に付着した糊は、清水で絞った布等で拭き取った後、必ずきれいな布で乾拭きしてください。
③	和紙ウォールII	WEN9301～9308	15～30分 (30～60分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●糊の付けだめを避けてください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●合成皮革等の塩ビ製品と接触させないでください。塩ビに含まれる可塑剤により壁紙が変質することがあります。
④	珪藻土・じゅらく	WEN9401～9424	10～20分 (20～30分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 ●通気性が高く、糊の乾燥が早いので付けだめしないうでください。アイハギが発生することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●表面を強くこすらないでください。粒子の脱落が発生することがあります。 ●通常の紙壁紙に比べ、カッターの刃が傷みやすいため、こまめにカッターの刃を替えてください。
⑤	織物 紙布	WEN9501～9521 WEN9601～9612	10～15分 (15～30分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 ●通気性が高く、糊の乾燥が早いので付けだめしないうでください。アイハギが発生することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●柔らかめの刷毛を用い、表面を強くこすらないでください。ほつれが発生することがあります。
⑥	和紙	WEN9701～9706	10～15分 (15～30分)	<ul style="list-style-type: none"> ●意匠表現上壁紙の光沢が高く、壁紙表面の凹凸がほとんどない商品のため、丹念にバテ処理を行い、特に下地を平滑に仕上げてください。 ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 ●通気性が高く、糊の乾燥が早いので付けだめしないうでください。アイハギが発生することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●柔らかめの刷毛を用い、表面を強くこすらないでください。表面の毛羽立ちや色落ちが発生することがあります。 ●素材の特性上、ジョイント部での色差が発生することがありますので、リバース張りをおすすめします。商品の特性としてご了承ください。 ●合成皮革等の塩ビ製品と接触させないでください。塩ビに含まれる可塑剤により壁紙が変質することがあります。
⑦	さざなみ和紙	WEN9707～9709	15～30分 (30～60分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●糊の付けだめを避けてください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 ●柔らかめの刷毛を用い、表面を強くこすらないでください。ほつれが発生することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨコ柄のため、ジョイント部が目立ちます。柄の特性上、避けることができない現象ですのでご了承ください。 ●合成皮革等の塩ビ製品と接触させないでください。塩ビに含まれる可塑剤により壁紙が変質することがあります。
⑧	シルキーウォールII	WEN9710～9714	15～30分 (30～60分)	<ul style="list-style-type: none"> ●意匠表現上壁紙の光沢が高く、壁紙表面の凹凸がほとんどない商品のため、丹念にバテ処理を行い、特に下地を平滑に仕上げてください。 ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●糊の付けだめを避けてください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●柔らかめの刷毛を用い、表面を強くこすらないでください。表面の毛羽立ちやほつれが発生することがあります。 ●素材の特性上、ジョイント部での色差が発生することがありますので、<u>リバース張り</u>を推奨します。商品の特性としてご了承ください。 ●合成皮革等の塩ビ製品と接触させないでください。塩ビに含まれる可塑剤により壁紙が変質することがあります。
⑨	ふりまき壁紙	WEN9801～9813	15～30分 (30～60分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ボンド入りの接着剤を使用し、塗布量は140～160g/m²を均一に塗布してください。 ●糊の付けだめを避けてください。 ●オープンタイムは温度や湿度に左右されやすいため、現場環境にあわせて調整してください。 ●柔らかめの刷毛を用い、表面を強くこすらないでください。表面の粒子が脱落しやすい商品ですので特性としてご了承ください。 ●ジョイント部カットの際は、定規をしっかりと押さえつけてカッターの刃が斜めに入らないようにしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●通常の紙壁紙に比べ、カッターの刃が傷みやすいため、こまめにカッターの刃を替えてください。 ●なで付けやローラーがけは、表面が傷ついたり粒子が脱落しないよう丁寧に行ってください。 ●柄の特性上、ジョイントが目立つことがあります。

取扱い上のご注意

選択上のご注意

1.防火性について

建築物の内装仕上げについては、建築基準法による防火上の基準が設けられています。防火性能は、下地基材と防火壁装材料および施工方法の組み合わせによって決まりますのでご注意ください。

2.使用環境について

高温・多湿、水濡れの環境や屋外での使用は避けてください。

3.吸放湿のある商品について

水のかかる場所（洗面廻り・トイレ）や湿気がこもる場所（脱衣所など）では、壁面の許容量以上に水分を含んでしまい、カビや壁紙の変色などが発生する場合があります。このような環境では、吸放湿性壁紙ではなく、汚れが付きにくくメンテナンス性に優れた「防汚紙ウォール」をおすすめします。

4.通気性のある商品について

通気性壁紙は空気中の微粒子も空気と一緒に吸い込む傾向があります。使用環境によっては、壁紙表面が汚れたり、変色する場合があります。

5.柄合わせの商品について

柄合わせを要する商品は、無地系よりも要尺が多くなりますのでご注意ください。柄合わせの必要な商品はサンプル帳などの「リポート表示」を確認してください。なお、糊の水分によって寸法変化が生じるため、仕上りのリポートとサンプル帳のリポート表記に若干の誤差が生じます。あらかじめご了承ください。

6.機能性壁紙について

機能性壁紙をご使用の際は、特長や注意点をご理解の上ご使用ください。詳しくは資料集の機能性説明ページをご参照ください。

7.施工費について

当サンプル帳には、自然素材を主体とした商品を取録しています。これらは、一般ビニル壁紙に比べて下地調整や材料を取扱う際に十分な配慮が必要となるため、施工費が割高となります。

8.柄の特性について

無地系のものであっても、製法上、規則的な柄グセの見える場合があります。あらかじめご了承ください。また、各ページの下欄に、「**■商品選択上の注意**」を記載していますので併せてご確認ください。織物壁紙は、製法上目曲がりが発生しますので、あらかじめご了承ください。

壁紙の耐用年数は、生活環境で大きく異なりますのでご注意ください。

また、吸放湿性/通気性のある紙壁紙や織物壁紙は、植物由来の素材を使用しているため、外的要因による変化を受けやすくなっています。そのため、一般ビニル壁紙に比べ経年で、退色や色ムラが発生する場合があります。

施工上のご注意

1.施工注意欄の確認

特に注意を必要とする商品には、各ページの下欄に「**■商品選択上の注意**」を記載しています。サンプル帳のP.76～77、資料集の施工上のご注意一覧をご一読の上、施工を開始してください。

2.取扱い注意欄の確認

商品の取扱いに注意を必要とする商品には、各ページの下欄に「**■取扱い上の注意**」を記載していますのでご確認ください。

3.副資材について

副資材（パテ・シーラー・糊・ボンド・防カビ剤等）は、必ず壁紙施工専用品をご使用ください。専用品以外のものを使用すると、目地スキやフクレを発生させる可能性があります。ご使用の際は、各副資材メーカーの施工要領・取扱注意事項を必ずご確認ください。

4.商品ラベルの確認

ラベルに記載されている品番・ロット・数量を確認の上、施工を開始してください。同一面上は同ロットで仕上げてください。

5.三巾ほど施工した時点で状態を確認

商品検査には充分配慮しておりますが、念のため三巾ほど施工した時点で、商品に問題のないことをご確認ください。商品に明らかな欠陥が見られる場合には、すぐに施工を中断し当社までご連絡くださいますようお願いいたします。三巾以降の作業が進行した場合、施工費賠償につきましては原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

下地の調整

1.下地は乾燥させてから

モルタル等の湿式下地や石膏ボードの石膏系接着剤による直張り工法（GL工法等）およびパテ、シーラーを施した箇所は充分に乾燥させてから施工してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・ハガレ・カビの発生を招くことがあります。

2.下地の平滑仕上げ

下地は施工後の不陸を防ぐために、平滑に仕上げてください。また、ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に沈めサビ止めをしてください。

3.モルタル下地、ペンキ下地、木質系下地の注意点

それぞれの下地専用のシーラーで必ず下地処理をしてください。また、ベニヤなどの木質系下地に直接施工した場合、時間が経つとシミや変色の原因となりますので、下地処理（シーラー処理）を充分に行ってください。シーラーは接着不良や変色を防ぎます。

4.下地と同色のパテを使用

施工後に下地の色が透けて見えることを防ぐため、パテは下地と同色のものをご使用ください。

施工糊について

1.ピュアボンド

施工糊は「東リ・ピュアボンド」をご使用ください。塗布量は140～160g/m²を目安とし、均一に塗布してください。塗布量の不足は、壁紙のアイハギや接着不良の原因となります。下地の種類・状態に合わせて、防カビ剤等を添加してください。「東リ・ピュアボンド」はシックハウス対策として建築基準法の規制対象外となる「F☆☆☆☆」品です。

2.機能性表示品の注意点

通気性表示のある壁紙はアイハギが発生しやすいので、糊の塗布量を多め（160g/m²）を目安にし、付けだめししないでください。

3.糊付け後の注意点

糊付け後、壁紙をきつたたんまり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折れジワが発生する可能性があります。

4.オープンタイムを取る

オープンタイムを取り、壁紙が柔らかくなってから張出してください。施工を容易にするとともに、フクレの発生を防ぎます。（サンプル帳P.77参照）

5.ホルムアルデヒド対策について

建築基準法の規制対象外となる「F☆☆☆☆」表示品をご使用ください。

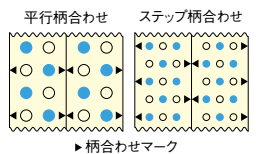
張付け

1.有効巾について

壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含みません。有効巾を超えた使用は、色違いの原因となります。

2.柄合わせについて

柄合わせを要する商品は基本として柄合わせマークを合わせて施工してください。柄合わせの必要な商品は、サンプル帳に「リポート」を表示しています。縦方向は「タテリポート」で柄合わせを行い、横方向は「ヨコリポート」を参考にして有効巾で柄合わせしてください。また、「ステップ柄合わせ」は一般的な平行柄合わせとは合わせ方が異なりますのでご注意ください。



3.ジョイント位置について

ジョイント位置は端部同士で施工してください。両端部と中央部では色差が生じることがあります。また、窓の上下など一部だけをヨコ張りすると色違いの原因となります。必ず同じ方向で施工してください。

4.石膏ボード下地の注意点

重ね切りを行う場合は、石膏ボードの表層紙まで切込まないようご注意ください。目地スキの原因となります。

5.ローラーかけ等の注意

ジョイント部のローラーかけは、あまり強く押し付けたり、片側だけに力をかけ過ぎないでください。クセが残ったり、傷や光沢の原因となります。なで付け、エア抜きは力を込めず丁寧にタテ方向を基本に行ってください。力を入れてヨコなですると、乾燥後に目地スキが発生することがあります。

養生

1.粘着性の強い養生テープは使用しない

粘着性の強いマスキングテープ（養生テープ）の使用は避けてください。また、粘着性の弱いものであっても貼付けたまま長時間放置しないでください。粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、テープを剥がすときに壁紙を破損することがあります。

2.付着した糊や汚れの除去

壁紙の表面や回り縁等に糊や汚れが付かないように注意してください。付着した場合は、きれいな水を含ませた布ですぐに拭取り、最後に乾拭きを行ってください。糊が付着したままで放置するとカビや変色の原因となります。また、濃色品ではしばらくしてから白く目立つことがありますので特にご注意ください。

3.施工後は自然乾燥を

施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。窓を開けて風通しを良くしたり、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目地スキ、ハガレ等の原因になります。

4.入居後の換気

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後の一週間程度は充分に換気を行ってください。（工事終了後、入居者の方にご説明ください）

金属下地について

サビ止めおよびシーラー処理は必ず行ってください。エチレン酢ビ系のボンドを混入した糊をご使用ください。オープンタイムを長めに取り、充分にエア抜きをして圧着を確実にしてください。フクレの原因になります。重ね切りを行う場合は、下地を切らないよう下敷きテープ等を使用してください。

廃棄上のご注意

1.残材を焼却しない

壁紙の残材やサンプル帳を焼却しないでください。焼却時のガスは、目・粘膜等を刺激することがありますのでご注意ください。

2.産業廃棄物として処理する場合

施工後の壁紙の残材やサンプル帳を産業廃棄物として処理する場合には、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。

3.一般廃棄物として処理する場合

少量の残材を一般廃棄物（家庭ゴミ）として処理する場合には、市町村条例に基づき処分してください。なお、業者の方が廃棄する場合には産業廃棄物となりますのでご注意ください。

荷扱い・保管上のご注意

1.商品受領時のお願い

受領時には、納品書と商品現品をご確認ください。万一、ご注文品と異なる品番や規格外の商品が納入された場合は購入先へご連絡ください。

2.荷扱い・保管上のお願い

- 1) 無理な運搬はしない
ロール状に巻かれた壁紙は重量物となるため、人力で取扱われる際には充分な安全確保をし、無理な運搬はしないでください。
- 2) 保管はタテ積み
商品の保管は、タテ積みでお願いします。ヨコ積みと井桁積みはしないでください。商品によっては置き跡が残る恐れがあります。
- 3) 高所から落とさない
商品はトラックの荷台等の高い所から落とさないでください。商品の破損やケガなどの危険を伴います。
- 4) 保管上の注意
保管場所は、火気・水・湿気・直射日光を避けてください。また、商品を地面へ置いて保管しないでください。

維持管理上のご注意

壁紙のメンテナンス

(工事終了後、以下の内容について
入居者の方にご説明ください)

壁紙は室内のホコリや結露、油汚れや手アカ等の付着により徐々に汚れていきます。また、結露はカビの発生や壁紙のハガレを誘発させることもあります。使用状況や環境にもよりますが、仕上りの美しさを維持するには、日常のメンテナンスと使用上の注意が必要となります。

一般的注意事項

1. 入居後は、まず換気を

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行ってください。



2. 直射日光からの保護

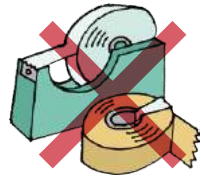
直射日光が長時間当たると、紫外線により壁紙の劣化と変退色が徐々に進みます。カーテンやブラインドを使用し、直射日光を避けるよう心掛けてください。

3. 熱風、高温を避ける

ストーブ等の暖房器具の熱風が直接壁紙に当たらないようにしてください。また、キッチンのレンジやダウンライトのすぐ近くなど、高温になる場所への使用は避けてください。熱により壁紙が変形、変色することがあります。

4. 粘着テープを貼らない

粘着テープ（セロハンテープやガムテープ等）を壁紙に貼付けないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙を破損することがあります。



5. 薬品や化粧品などを付着させない

スプレー式の薬品、殺虫剤、化粧品等を壁紙に付着させないでください。壁紙が変色することがあります。

6. 傷を付けない

壁紙表面を破損しないようご注意ください。破損すると補修が困難です。日常生活において、家具や荷物等を当てない注意が必要です。[表面強化]の表示のある壁紙は、傷が付きにくくなっています。



7. 家具を壁面に密着させない

家具の塗料に含まれる色素やベニヤの色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙との間に空間の余裕を取ってください（結露やカビの予防にもなります）。



壁紙の耐用年数は、生活環境で大きく異なりますのでご注意ください。

汚れ

壁紙の汚れには多種多様なものがあります。重要なことは「汚染物を付着させない」と、「付着したらすぐに拭取る」ことです。汚れが付きやすい場所には「汚れ防止」の表示のある壁紙をおすすめします。ただし、汚れの種類によっては完全に拭取ることができないものもありますのでご注意ください。

日常のお手入れ

日常のお手入れは、ハタキをかけたり布・タオル等でホコリを拭取ってください。

- ホコリを長期間放置すると、湿気や油分を吸って取りにくくなります。
- 調理による油煙やタバコの煙は壁紙を短時間で変色させてしまうため、常に室内の換気に心掛けてください。

汚れが付着したら

1. 水性の汚れ（飲食物や調味料等）

水性の汚れが付着したら、直ちに乾布で汚れを吸い取るように拭き取ってください。取れにくい場合は清水で固く絞った湿布で軽く叩くようにして落とし、仕上げに乾布で乾拭きしてください。

- 水の絞り方が弱いと目地部から染み込むことがあります。シミやハガレの原因となりますのでご注意ください。
- シンナー等の有機溶剤は変色や色落ちの原因となりますので使用しないでください。
- 長期間放置されて染み込んだ汚れは、頑固な汚れとなり落とすことができなくなります。

2. 油性の汚れ（油汚れやマジックペン等）

頑固な汚れとなり、拭取ることができなくなります。

<汚れ防止壁紙の場合>

表面のフィルム加工により壁紙内部に汚れが浸透しにくく、汚れが拭取りやすくなっています。水拭きまたは中性洗剤を薄めたものをご使用ください。また、最後は必ずきれいな水を用いて残った洗剤分を拭取ってください。凹部などの細かな箇所などは歯ブラシを用いると効果的です。油性マジックなどの頑固な汚れには消毒用アルコールが使用できますが、完全に拭取ることができない場合があります。シンナー等の有機溶剤は変色や色落ちすることがありますので、あらかじめ目立たない箇所を確認してからお使いください。なお、タバコのヤニのように、長期にわたって蓄積された汚れは完全に拭取することは困難です。

ハガレ、隙間

時間の経過と共に、部分的にハガレが生じることがあります。ハガレが広がる前に、文房具糊や木工用水性接着剤を壁紙裏面に塗布し、壁紙になじませてから圧着して補修してください。天井部と壁面との見切り部分や壁面の入隅等では、躯体（建物）の動きによって隙間の発生することがあります。この場合には、壁紙用のコーキング剤（合成樹脂系充填剤）を充填して隙間を埋めてください。但し、表面に用いた場合、コーキングの性質上、ホコリ等が付着し徐々に汚れてくることがありますのでご注意ください。

結露

水蒸気の発生しやすい場所では、湿度の高い状態が続くと、結露によるシミ、ハガレ、カビの原因となります。水蒸気の発生を少なくすること、室内の換気や除湿を心掛けてください。カビは壁紙を汚染するだけにとどまらず、そこで生活をされる方の体調に影響を及ぼす恐れがありますので注意が必要です。

1. 水蒸気の発生源を少なくする

ガスや石油の開放型ストーブをエアコンに切替えたり、加湿器の使用を控える等の工夫をしてください。

2. 換気、除湿を行う

換気回数を多くし、暖房等から発生した水蒸気を外へ排出してください。浴室や料理時の水蒸気などは換気扇を使用して排出してください。除湿器、吸湿剤等を使用し、余分な水蒸気を除去することも有効です。



3. 通気を良くする

家具裏などの空間に余裕を取り、家全体の空気の流れを良くする工夫をしてください。

カビ

カビは壁紙を汚染するだけにとどまらず、そこで生活する人のアレルギーや喘息等の原因になることがありますので注意が必要です。防カビ性壁紙を使用しているだけではカビを防ぐことはできません。カビを防ぐには、換気に心掛け、通風を良くし湿度の上昇を抑えてください。

カビが発生したら

カビが表面の一部に発生した場合は、カビが飛散しないよう濡れタオル等で拭取ってから充分乾燥させてください。再発防止策として、消毒用アルコール等での殺菌が効果的ですが、壁紙表面が色落ちしたり変色したりすることがありますので、目立たないところで確認してから行うようにしてください。カビが大量に発生している場合は、下地からの修繕が必要となる場合があるため、専門業者の方に相談することをおすすめします。